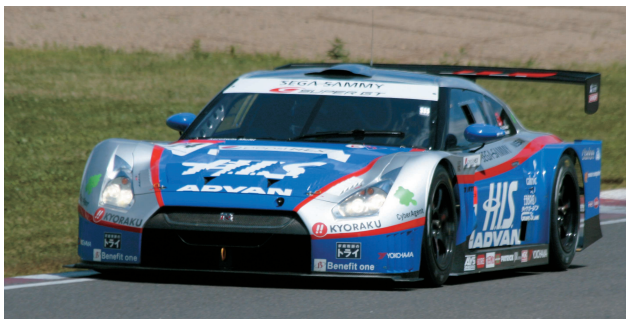
ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2010年 SUPER GTシリーズ第6戦

2010.8.22

第39回インターナショナル ポッカGTサマースペシャル



横浜ゴム（株）は、フラッグシップ・ブランド「ADVAN」の性能訴求及び企業イメージの向上として、2010年も国内のみならず、海外へも積極的にモータースポーツを支援していく。その活動のひとつであるのが、SUPER GTシリーズ。日本で最も高い人気とハイコンペティションを誇るレースに、ADVANはGT500クラスにおいて、近藤真彦監督率いるKONDO RACINGとのパートナーシップを2010年も継続している。HIS ADVAN KONDO GT-Rを駆るのは、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと安田裕信の新タッグ。もちろん狙うは開幕戦に次ぐ勝利、そして初のチャンピオンである。

SUPER GTシリーズ第7戦、夏の鈴鹿ラウンドは一昨年まで1000kmレースとして開催されてきたが、現在は700kmレースに改められている。それでも暑く厳しい戦いであることには変わりはない。

前回のスポーツランドSUGOでのレースでは、デ・オリベイラのアタック中にスピンした車両があり、アクセルを戻さざるを得なかったため、予選11番手に留まり、スーパーラップにも進出できなかった。しかし、決勝ではスタートを担当したデ・オリベイラが最長となる51周を走行して、ライフと性能の両立を証明。後半を担当した安田も、コンスタントな走りで5位にまで順位を上げていた。

SUGOのレースも灼熱状態。これに耐え抜いたタイヤをベースに、同じ鈴鹿での昨年のレースや今年の開幕戦で得られたデータをミックス。特に狙いとされたのは、周回の安定性だ。もはや絶対に落とせない一戦において、コンスタントにタイムをまとめあげるための、強力な武器となることが期待される。

また、今回のレースには3回以上のピットストップが昨年に引き続き、またそのつどドライバー交代も行うことが新たに義務づけられた。1スティントごとのドライバー交代やタイヤ交換、給油を行うGT500クラスでは影響が及ぶことはそうないだろう。だが、3回のうち1回をショートスティントにしてドライバー交代なし、タイヤ無交換や少量給油、中にはエンジン停止だけのストップ&ゴーさえ行って、ロスを最小限としていたチームもあった、GT300クラスには大いに影響を及ぼしそうだ。

燃費の厳しいFIA-GT車両、ロータリーエンジンを積むRX-7には大歓迎のはず。毎回どの車両もドライバー交代の分だけ、ロスを抱えるようになったからだ。もっとも、タイヤ交換と給油は同時に行えないから、そのドライバー交代の時間だけの作業だけにすれば、最小限のロスになる。1回はタイヤ交換のみで給油は行わない……、それは燃費に優れた車両にのみ許される特権となるかもしれない。

いずれにせよ、さまざまな作戦がチームごとに駆使されるのは間違いなく、その違いによってレースがいかようにも動かされるはずだ。作戦がピタリとはまった上で、鈴鹿はそれほどウエイトハンデに左右されないレイアウトでもあるから、他のレース以上にランキング上位陣にも表彰台獲得の可能性がある。

昨年、優勝を飾ったエスロードMOLA Zは66kg、そして最終ラップまでトップを走ったアップル・K-one・紫電にいたっては88kgも積んでいた。ということは、前回の優勝で70kgを積むことになった紫電が連勝しても、何ら不思議ではないともいえる。アップスタートMOLA Zの2年連続優勝、そして昨年のウィナー星野一樹と柳田真孝が移ってきたTOMICA Zにも、可能性は十分ある。

その一方で、先に「左右されない」と触れておいて矛盾もあるが、やはりウエイトハンデに苦しんでいないチームの方が有利ではある。連覇を狙う意味では、もう絶対に落とせないレースになったウェッズスポーツIS350、前回の3位で勢い十分のエヴァンゲリオンRT初号機aprカローラは、未だ40kg台。そして、途中参戦とあって、まだ24kgのZENT Porsche RSRは、確実に勝ちにくる。前回のSUGOで実証された、高温域にも対応できる耐久性が、ADVANユーザーをバックアップするはずだ。

2010年 SUPER GTシリーズ第6戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	3種類（S、MH、H）	2種類（MS、M）
	サイズ	Fr 330/710R18、Rr 330/710R17	330/710R18、280/710R18、280/680R18、280/650R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類（S、M）	2種類（S、M）
	サイズ	Fr 330/710R18、Rr 330/710R17	330/710R18、280/710R18、280/680R18、280/650R18

横浜ゴム株式会社　広報部
〒105-8685　東京都港区新橋5-36-11
TEL:03-5400-4531

THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.
5-36-11, SHIMBASHI, MINATO-KU, TOKYO, 105-8685, JAPAN
TEL:+81-3-5400-4531

横浜ゴム公式ウェブサイト　http://www.yrc.co.jp
ADVAN公式ウェブサイト（モータースポーツ情報）　http://msj.advan.com

鈴鹿の夏、ADVANの夏

今でこそ1000kmから700kmに短縮されてしまったが、鈴鹿の耐久レースは、日本随一の伝統を誇るレースである。第1回鈴鹿1000kmが行われたのは、鈴鹿サーキットが創立した1962年、その4年後となる66年だ。オイルショックによって74年から7年間、中断していた時期もあるが、今回で実に39回目となる。その時代ごと主流であるカテゴリーを主役として、さまざまな変化を遂げてきたが、共通するのは長く、厳しい戦いということ。そして、そこには数多くのドラマが誕生する。

ADVANユーザーによる優勝（～2005年まで）

1980	I	52	ADVANサニー	萩原　光／小幡　栄
1981	A	25	ADVANサニー	和田孝夫／萩原　光
1984	B	18	ADVAN ALPHA 956	高橋国光／高橋健二／G.リース
1985	D	25	ADVAN ALPHA 962	高橋国光／高橋健二
1986	A	48	A-ONE・ローベル&モデナ	水谷敬一／鎌田勇三／小倉良幸
1989	C	25	ADVAN alpha 962C	高橋国光／S.ディケンズ
1993	N1	15	STP☆ススキレーシングGT-R	岡本克彦／本吉晋也
1994	GT2	100	ADVAN NSX	高橋国光／土屋圭市／飯田　章
1995	GT	100	HONDA NSX	高橋国光／土屋圭市／飯田　章
1996	GTL	31	カルテックスポルシェ	池谷勝則／石原将光／小林且雄
1999	GT300	81	ダイシンシルビア	福山英朗／大八木信行／青木孝行
2000	GT300	26	シェルタイサンアドバンGT3R	松田秀士／福山英朗／西澤和之
	RS	52	CGRTフルヤデンタルSK52	古谷直樹／古谷昌義／塚原　久
2001	INT	72	シェルタイサンアドバンGT3R	福山英朗／余郷　敦／西澤和之
	GT300	81	ダイシンADVANシルビア	大八木信行／青木孝行／横島　久
	C-GT	3	PCJ日本ポルシェクラブ910	平川　晃／橋村俊英／A.ウイルコクス
	S-E	20	RSオガワADVANランサー	小宮延雄／冨本好成／パク・ジョンユン
2002	S-E	20	RSオガワADVANランサー	小宮延雄／小林且雄／伊藤勝一
2003	RS	15	Team NCL 5.2	西村秀敏／太田　浩／古谷昌義
2004	GT300	20	FK/マッシモADVANポルシェGT3RSR	和田　博／影山正美／井上貴志
	OPEN	112	ARKTECH ADVAN GT3 MONDSPEED	齋藤多聞／吉川とみ子／芳賀重光
	RS	8	21st with JFA最強BOMBERS	島沢隆彦／太田　浩／板倉達也
2005	GT300	2	Privee Zurichアップル RD320R	高橋一穂／渡辺　明／加藤寛規
	RS	15	真神パワーADVAN☆RS倶楽部	阪口良平／若曽根一廣／後平幸治
	POKKA	84	焼きたて!!ジャぱんADVAN PORSCHE	飯田　章／橋口たかし／木村　崇

※写真はイメージです

ADVANは鈴鹿1000kmに、再開された80年から出場している。ブランドの誕生3年目となるシーズンでもあり、当初はTSサニーを送り込むのみだったが、それでもGCカーやグループ5ポルシェを相手に健闘、2年連続クラス優勝を飾っているばかりか、80年は総合3位、81年は総合4位をも獲得している。

その後、主役はグループCに移り、84年にはポルシェ956によって、ついに総合優勝も達成される。ポルシェとADVAN、そして鈴鹿1000kmとの相性は良く、その後も85年、89年と優勝を重ねた。

90年代半ばからは、いよいよGTが主役に。そこに99年よりJGTC車両が加わるようになり、徐々に勢力を拡大。そして、2006年からはSUPER GTの一戦として争われることとなり、現在に至っている。アマチュアにも門戸が開かれていた時期は、数々のクラスでADVANユーザーたちは優勝を飾り、その高性能を享受。あの頃のムードも忘れられない。

その一方で、総合優勝から久しく遠ざかっているのが残念でならない。夢よ再び!その期待は今年、HIS ADVAN KONDO GT-Rに託される。

GT500/ADVANユーザー上位2チーム（2006年～）

				予選	決勝
2006	25	ECLIPSE ADVANスープラ	織戸　学／土屋武士／野田英樹	2	R
	24	WOODONE ADVAN KONDO Z	E.コマス／柳田真孝／荒　聖治	6	5
2007	25	ECLIPSE ADVAN SC430	土屋武士／織戸　学	3	R
	24	WOODONE ADVAN Clarion Z	J.P.デ・オリベイラ／荒　聖治	15	10
2008	25	ECLIPSE ADVAN SC430	土屋武士／石浦宏明	15	14
	24	WOODONE ADVAN Clarion GT-R	J.P.デ・オリベイラ／荒　聖治	14	7
2009	24	HIS ADVAN KONDO GT-R	J.P.デ・オリベイラ／荒　聖治	10	11

GT300/ADVANユーザー上位3チーム（2006年～）

	予選				決勝			
2006	2	19	ウェッズスポーツセリカ	松田晃司／脇阪薫一	2	27	direxiv ADVAN 320R	密山祥吾／谷口信輝
	3	13	エンドレスアドバンCCI Z	影山正美／藤井誠暢	4	7	雨宮アスパラドリンクRX-7	山野哲也／井入宏之／山路慎一
	4	5	プロμマッハGOGOGO車検320R九州	玉中哲二／筒井克彦／渡辺　明	5	2	プリヴェチューリッヒ・紫電	高橋一穂／加藤寛規／吉本大樹
2007	1	2	プリヴェKENZOアセット紫電	高橋一穂／加藤寛規／吉本大樹	1	2	プリヴェKENZOアセット紫電	高橋一穂／加藤寛規／吉本大樹
	3	62	WILLCOM ADVAN VEMAC 408R	柴原眞介／黒澤治樹	3	62	WILLCOM ADVAN VEMAC 408R	柴原眞介／黒澤治樹
	4	13	エンドレスアドバン洗剤革命Z	影山正美／藤井誠暢	5	13	エンドレスアドバン洗剤革命Z	影山正美／藤井誠暢
2008	4	2	プリヴェKENZOアセット紫電	高橋一穂／加藤寛規／吉本大樹	3	7	ORC雨宮SGC7	井入宏之／折目　遼／松村浩之
	6	19	ウェッズスポーツIS350	織戸　学／阿部　翼／関口雄飛	4	62	WILLCOM ADVAN VEMAC 408R	柴原眞介／黒澤治樹／密山祥吾
	7	81	ダイシンADVAN Z	青木孝行／藤井誠暢	5	26	ユンケルパワータイサンポルシェ	谷口信輝／山路慎一／澤　圭太
2009	1	81	ダイシンアドバンFerrari	青木孝行／藤井誠暢／青山光司	1	46	エスロードMOLA Z	星野一樹／柳田真孝
	2	11	JIMGAINER ADVAN F430	田中哲也／平中克幸	3	2	アップルK-one・紫電	加藤寛規／吉本大樹
	3	26	UP STARTタイサンポルシェ	黒澤治樹／阿部　翼／筒井克彦	5	11	JIMGAINER ADVAN F430	田中哲也／平中克幸